



ニュースレター 第10号
 2017年5月

サポーターティブ・スーパービジョンをコンポンチャム州で開始しました。

出生直後の新生児ケア (Immediate Newborn Care : INC) 研修が対象州 (コンポンチャム・スバイリエン州) の医療従事者に向けて活発に実施されるようになってきました。しかし、研修を修了したからといって、習得した知識や技術が現場で正しく実践されているとは限りません。そこで重要となるのが、研修後の医療従事者へのサポーターティブ・スーパービジョンです。

サポーターティブ・スーパービジョンとは？
 行政機関や上位の病院が保健医療施設を訪問し、そこで働く医療従事者に直接助言・指導を行い具体的な改善につなげていくこと。

コンポンチャム州では、コンポンチャム州保健局の母子保健課長、州病院のベテラン助産師、郡保健局の母子保健担当官が三位一体となり、INC研修を受講した保健センターを訪問し、INC研修と同じチェックリストを用いて知識・技術を現場で再チェックをしています。また、知識・技術のチェックのみではなく、分娩室内の配置、衛生、整理整頓等の環境への助言も行っています。その後、保健センタースタッフとフィードバックセッションを行い、改善点を洗い出し、現場ならではの問題点や悩みを行政側と共有しながら改善方法を話し合うこともサポーターティブ・スーパービジョンの重要な点です。



州都からかなり離れた地域の保健センターにも出向きます。未舗装道路やメコン川を渡るフェリーでの移動が必要です。



スタッフに分娩台に乗ってもらい実際のお産の一連の流れに見立て、出生直後の新生児ケアの技術チェックを行います。本番さながらです。



新生児のマネキンを使用して、新生児蘇生の技術チェックを行っている様子。



技術チェックが完了した後は、必ずフィードバックセッションを行います。良かった点、悪かった点を伝え、改善に向けた話し合いを行います。



サポーターティブ・スーパービジョンにて正しい実践ができていと確認されてはじめて、INC研修の修了証が授与されます。(右2人目：真崎専門家)



サポーターティブ・スーパービジョンチームとスーパービジョンを受けた保健センタースタッフ達と。



今回訪問を受けた保健センタースタッフからは、以下のような声が寄せられました。州地方部のアクセスの悪い保健センターで日々奮闘するスタッフにとって行政官が直接訪問し彼らの課題に耳を傾けることを大きな意味を持つと思います。プロジェクトでは今後もサポーターティブ・スーパービジョンを継続して支援していきます。

<保健センター助産師> INC研修で学んだことを忘れていた部分もあったので、思い出すよい機会となった。

<保健センター長> 保健センター助産師がINC研修に参加できる機会があり、研修後も助産師の知識・能力の再確認とフォローアップを実施してもらえることは、彼らの意欲の向上に繋がり、村の保健を担う保健スタッフとして大変嬉しく思う。

また、サポーターティブ・スーパービジョンでの知識・技術の際チェック結果や課題をまとめ、州レベルでの早期必須新生児ケア(EENC)会議で議題として取り上げ 皆でレビューします。その内容は次号以降にお伝え致します。